

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.280

2016年9月

名古屋大学オープンキャンパス2016を開催



## 目次

### ●ニュース

名古屋大学オープンキャンパス2016を開催	3
ホシザキ奨学金授与式を挙	4
教育基盤連携本部の看板上掲式を挙	4
UK-JAPAN Science Workshops in Nagoya 2016を開催	5
名大 MIRAI GSC を実施	5
第17回大学施設マネジメント研究会を開催	6
若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催	6
短期日本語プログラム（NUSTEP）2016年夏季の受入れを実施	7
名大ー産総研アライアンス事業を実施	7
ディスカバリーチャンネル科学実験館コズミックカレッジ2016を開催	8
第27回日本数学コンクール及び第20回日本ジュニア数学コンクールを開催	8

### ●知の未来へ

宇宙線ミュオンによる最新イメージング技術	9
森島 邦博（高等研究院特任助教）	

### ●知の先端

不思議な裸子植物グネモンと樹木の負重力屈性を巡る謎	10
山本 浩之（大学院生命農学研究科教授）	

### ●学生の元気

第65回東海地区国立大学体育大会 ー男子優勝、女子4位ー	12
------------------------------	----

### ●部局ニュース

大学院国際開発研究科創立25周年記念事業を開催	13
平成28年度工学部懇話会を開催	14
日韓宗教テキスト遺産共同ワークショップを開催	15
紫綬褒章受章記念講演会・懇談会を開催	15
第1回農場講演会を開催	16
未来材料・システム研究所東京分室の看板上掲式を挙	16
公開講演会「嵐を測る」を開催	17
サテライト展示「名大の蛾Ⅱー春～夏の蛾ー」を開催	17

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成28年7月16日～8月15日	18
---------------------------------	----

●イベントカレンダー	20
------------	----

●表紙サークル紹介	23
-----------	----

### ●ちょっと名大史

清川 正二 ーオリンピック金メダルへの道ー	24
-----------------------	----

# 名古屋大学オープンキャンパス2016を開催





1 名大生との対話・展示コーナーの様子  
 2 研究室見学（工学部）  
 3 学部企画の様子（情報学部）

名古屋大学オープンキャンパス2016が、8月8日(月)から10日(水)までの3日間、開催されました。これは、高校2年生を中心とする大学進学希望者を対象として、本学の教育・研究における特色の紹介や施設見学等を通じて「名古屋大学で何が学べるか」を紹介し、今後の適切な進路選択をする上での意識を高めてもらうことを目的とするものです。今年も、連日の猛暑にもかかわらず、多くの高校生等が参加しました。

学部企画においては、学部長をはじめとする教職員や在学生が一体となり、各学部・学科の教育・研究の特色・魅力・各種の活動等の紹介、模擬講義、各種懇談会及び研究室や施設見学等が行われ、参加者にとって、志望する学部・学科の状況等を直接肌で感じ取ることのできる多数の企画が実施されました。

全体企画では、本学の概要、入試制度、経済支援及び就職支援等をはじめとするこれから受験を考える参加者が知りたい事項の説明に加えて、本学における各種の特徴ある取り組みについ



て、教職員による講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、生協学生委員をはじめとする在学生による東山キャンパスの見学ツアーへの参加、名大生との対話コーナーにおける各種学生生活に関する展示コーナーの見学や、対談ブースにおける在学生との相談等に多数の参加者が訪れていました。

今年度のオープンキャンパスの参加者数は、3日間を通じて10,185名となり、事前申込みのない参加者2,640名(保護者等含む)を加えると、総勢12,825

名の方が参加し、今回も活気あふれるオープンキャンパスとなりました。

オープンキャンパス参加者数

8月8日(月)	教育学部	658名
	経済学部	863名
	工学部	3,132名
8月9日(火)	法学部	823名
	医学部(医)	663名
	農学部	791名
8月10日(水)	文学部	788名
	情報学部(仮称)	268名
	理学部	1,267名
合計		10,185名

\*医学部保健学科のオープンキャンパスは大幸キャンパスで開催

## ホシザキ奨学金授与式を挙

名古屋大学ホシザキ奨学金授与式が、7月15日(金)、豊田講堂第1会議室において挙

行されました。本奨学金は、ホシザキ株式会社の会長兼社長ご夫妻が設立した「坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社」から寄附いただいた株式の配当金を原資として、今年度新たに設立した本学独自の奨学金制度です。「モノづく



記念撮影

りを学ぶ、将来ある学生を支援したい」との寄附者のご意向を受け、給付型奨学金として、工学部及び大学院工学研究科(大学院環境学研究科及び大学院情報科学研究科のうち、大学院工学研究科に関連する専攻を含む)を対象として、成績が優秀かつ経済的に困窮した学生に対して給付するものです。今年度の奨学生は5名で、授与式では奨学生採用通知書が授与されました。

授与式では、松尾総長から、「モノづくりを志す学生を支援したいという寄附者の強いご意志のもと、独創的かつ高品質なモノづくりにより、学術憲章に掲げる“人々の幸福”に貢献することができる人材となるよう、学業・研究に一層励んでいただきたい」と祝辞があり、受賞者は改めて奨学生としての自覚を深めました。続いて、来賓として、坂本精志坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社社長より、「学業や研究に心おきなく取り組み、また学業以外のことにも大いに興味を持って、優秀な人材に育ってほしい」と励ましの辞をいただきました。

授与式終了後に行われた懇談会においては、終始和やかな雰囲気の中で、勉学内容や研究内容、進路等について活発な意見交換が行われ有意義な会となりました。

## 教育基盤連携本部の看板上掲式を挙

4月1日付けで設置された教育基盤連携本部の看板上掲式が、7月22日(金)、本部2号館玄関において挙

行されました。同本部は、社会が求める人材像に照らし、一体的に策定された本学の教育を支える3つの方針(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)



看板を掲げる総長(中央)、松下本部長(右)、木俣副本部長(左)

に基づき、学位授与、教育課程の編成・実施及び入学者選抜を精査及び改革するとともに、その実現に向け、教学マネジメント・システムの構築に係る企画・立案及び全学的な実施支援を行い、入学から卒業、修了まで一貫した教学マネジメント・システムを構築することを目的に設置されました。同本部は、アドミッション部門と高等教育システム開発部門からなり、アドミッション部門では、「多面的・総合的な入学者選抜方法の開発」及び「大学入学

者学力評価テスト(仮称)導入に向けた対応」を中心とした取り組みを、高等教育システム開発部門では、「卒業時における質の保証の取組」及び「教学IRへの貢献」など、「教育の内部質保証の確立」を中心とした取り組みを開始しています。上掲式では、松尾総長から、同本部へ期待を込めたメッセージが送られ、引き続き、多くの教職員が見守る中、総長、松下教育基盤連携本部長、木俣教育基盤連携本部副本部長による看板の上掲が行われ、式典は無事終了しました。

## UK-JAPAN Science Workshops in Nagoya 2016を開催

7月31日(日)から8月6日(土)までの7日間、本学を拠点にUK-JAPAN Science Workshops in Nagoya 2016が開催されました。このワークショップは将来の女性科学者、女性リーダーの育成が目的であり、日英の女子高校生32名が参加しました。また、「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム、教育推進部、附



名古屋城での講義の様子

属学校が受け入れの中心となりました。参加校は、日本からは、スーパーサイエンスハイスクールとスーパーグローバルハイスクールを合わせて実践している教育学部附属中・高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、浦和第一女子高等学校の他、金城学院高等学校であり、英国からは7つの高校でした。探究心・創造性・チームワーク・国際性を獲得するため、生徒たちは日英合同で6～8名の小グループに分かれ、教育発達科学、医学、保健、生命農学、国際開発の5つのワークショップに参加し、大学での研究に触れました。その後、プレゼンテーションを通して成果を全体で共有しました。生徒全員で、構内にある山の上体育合宿所で宿泊し、食事も一緒にとるなど寝食を共にする過程で友好を深めることもできました。来年度は、英国で同様のワークショップを開催する予定です。

## 名大 MIRAI GSC を実施

名大 MIRAI GSC における第1ステージが7月9日(土)、16日(土)、23日(土)の3日間、野依記念学術交流館2階カンファレンスホールにおいて開催されました。

名大 MIRAI GSC は、今年度、文部科学省主催の「グローバル・サイエンス・キャンパス (GSC)」に採択された企画であり、主に東海四県の高校生を対象に本学の特色を活



GSC 参加高校生へ講演する天野 浩未来材料・システム研究所教授

かした事業を実施します。

本学では「NU MIRAI 2020」を展開・推進していますが、本企画はそれに因み「名大 MIRAI GSC」と名付けました。また、本学では21世紀になって6人もノーベル賞受賞者を輩出しており、特に地域の企業や高等学校からの科学技術人材の育成に対する期待は高く、本企画においても「ノーベル賞を受賞したいと夢見ているイマジネーション豊かな研究者、さらには世界の舞台でリーダーになりたいと思う強い意志と高い志を持つ人材の育成」を目的としました。

今年度は、東海四県の教育委員会や高等学校長会とのコンソーシアムを構築し、6月に受講生の募集を開始したところ、高校生134名の申し込みがありました。その中から書類審査により115名を選抜し、第1ステージを開始しました。第1ステージでは、自然科学の様々な分野から9名の教員による講義を実施し、それに対するレポート審査により第2ステージへの進出者58名を決定しました。

第2ステージでは、58名の受講者が29の研究室に分かれて実験・実習による研究を行い、その成果発表をもとに第3ステージへの進出者20名を決定し、来年3月にドイツのフライブルク大学等への海外研修を実施します。

## 第17回大学施設マネジメント研究会を開催

第17回大学施設マネジメント研究会が、7月27日(水)、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。今回は、昨年度末、ほぼ同時期に発行された立命館大学と本学の新しいキャンパスマスタープランを題材に「キャンパスマスタープランの新たな展開」をテーマとして開催されました。



パネルディスカッションの様子

研究会には、全国の大学、企業等から約250名の参加がありました。木村理事のあいさつに始まり、富田大志文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長からの来賓あいさつ、恒川工学部施設整備推進室長による主旨説明に引き続き、「名古屋大学キャンパスマスタープラン2016」について、太幡英亮工学研究科准教授及び小松施設管理部長より講演が行われ、キャンパスマスタープランや施設マネジメントなど、本学の先進的な取り組みが披露されました。その後、立命館大学キャンパス計画室の及川清昭教授、武田史朗准教授より、「立命館大学のキャンパスマスタープラン」の紹介がなされ、総合企画部の大藪康成氏から、マスタープランを実現するマネジメントについて講演がありました。

第二部では、登壇者によるパネルディスカッションが行われました。参加者から数多くの質問を受け、キャンパスにおけるマスタープラン実現のためのマネジメントの体制や方法などについて活発な意見交換がなされました。最後に、奥宮施設・環境計画室長より、まとめのあいさつが述べられ研究会は盛況のうちに閉会しました。

## 若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催

名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーが、オープンキャンパス2016開催期間中の8月8日(月)、豊田講堂ギャラリー及び第1会議室において開催されました。同イベントは、鈴木陽香工学研究科助教及び仲田(狩野)麻奈高等研究院特任助教の2名による特別講演で始まり、続いて、女子中高生に

してポスター発表の聴き方、見方のポイントを伝えるポスターガイダンスが行われた後、学内の若手女性研究者28名によるポスターセッションが行われました。

同時開催のセミナーには、愛知、岐阜、三重の東海3県を中心に、女子中高生とその保護者や教員、その他多くの来場があり、特別講演とポスターセッションを観覧しました。

最後に、ポスターセッションにおいて優秀な発表を行った者に贈られる「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム総長賞」の投票が、理系部局の研究科長等の審査員や、女子中高生等の一般来場者によって行われました。得票数により、工学研究科博士課程前期課程1年佐藤飛鳥さん、理学研究科博士課程前期課程1年伏見雅子さん、理学研究科博士課程前期課程1年伊藤江里さんの3名が選ばれ、松尾総長から表彰を受けました。

この催しは、若手女性研究者の研究発表・交流を目的とし、同時に理系分野に興味のある女子中高生へのエンカレッジの場として、理系分野で活躍中の女性研究者の話と直接聴くことができる貴重な機会となっています。



ポスターセッションの様子

## 短期日本語プログラム（NUSTEP）2016年夏季の受入れを実施

短期日本語プログラム（NUSTEP）が、7月7日（木）から21日（木）までの間、実施されました。NUSTEPは平成27年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援構想の下で実施される2週間のプログラムで、今年度は7月と2月に開講します。2回目の受入れとなった今回は、中国・香港・台湾の協定校から21名の学部生を受入れました。



本学の学生との交流会

本プログラムでは、午前には日本語学習、午後には日本の文化・社会について理解を深めるための活動や、本学の教育・研究を体験する活動を準備しています。具体的には、専門講義の受講や学内研究施設の見学、着付け・書道体験、トヨタの工場見学、キャリア探求ワークショップ、本学学生との交流会など、多岐にわたる活動を行いました。また、週末を利用し、9日（土）は岡崎市へのフィールドトリップ、16日（土）は市内視察（希望者のみ）も行いました。

最終日にはプログラムの総まとめとして、様々な活動を通して深まった「日本」についての自身の考えを、資料などを交えながら、日本語で発表しました。その中には、日本人であっても知らないことが多く、聴衆として参加していた日本人学生や教員も新たな発見が得られたようです。

プログラム全体を通して、参加学生は、他の参加者や本学の学生との交流を深めていました。終了時に行ったアンケートでは、全体的に満足した様子がうかがえ、「帰ったらNUSTEPを紹介したい」という声もあがっていました。

## 名大－産総研アライアンス事業を実施

本学と国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との連携・協力協定に基づく活動の一環である「名大－産総研アライアンス事業」の二次審査会が、7月22日（金）、ナショナルイノベーションコンプレックス2階小会議室において実施されました。

本事業は、平成20年度から平成26年度まで実施していた



二次審査会の様子

「FS 調査共同研究」を発展させ、平成27年度から実施しており、今年度が2回目です。目的は、①新たな外部資金の獲得、②研究開発プロジェクトのさらなる骨太化（サブテーマの新設など）、③社会に大きなインパクトをもたらす研究開発プロジェクトの創出を目指す、本学と産総研の研究者による共同研究の支援です。

今年度は19件の提案があり、書面審査を通過した12件について二次審査を行いました。1件あたり10分間という決められた時間の中、本学と産総研の研究者がペアを組んだ共同提案を発表し、審査委員からの質疑応答による有意義な意見交換が行われました。

二次審査会後に開催された審査委員会の結果、9件の採択が決定され、共同研究を実施することになりました。今後、エレクトロニクス・製造領域、生命工学領域等、多様な領域の課題において、共同研究が推進されます。

本学と産総研の得意分野の技術・研究を互いに補完しあいながら、両機関間の共同研究等における連携強化及び人的交流の活発化が期待されています。

## ディスカバリーチャンネル科学実験館コズミックカレッジ2016を開催

本学と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携協力協定に基づきディスカバリーチャンネル科学実験館コズミックカレッジ2016が、7月24日（日）、豊田講堂において開催されました。このイベントは科学の楽しさを親子で体験してもらうことを目的にJAXAとディスカバリー・ジャパン株式会社が主催し、6月から9月にかけて



講演終了後、ブースで子供たちに囲まれる平原教授

て全国5都市で開催されています。本学が共催する名古屋会場には午前、午後、合わせて1,039名の親子が参加しました。

会場では“もうひとつの地球”を目指すという設定で様々な実験やクイズを交えたミッションに子供たちが挑戦しました。宇宙環境やロケットの推進方法、航法の他、三菱電機が紹介する最新の望遠鏡の仕組みや、auとHAKUTOがチャレンジしている月面探査車などをテーマにしたミッションがありました。参加者はイベントで流れる美しい映像や興味深い実験などが体験でき、興奮に満ちた歓声が上がりました。本学からは平原聖文字宙地球環境研究所教授が特別講師として、宇宙環境とオーロラ研究について紹介しました。平原教授が作り出す放電現象を子供たちは興味に満ちた目で見つめていました。

イベント終了後も会場の外では講演に関連したブースの出展があり、どのブースも宇宙を知りたい子供たちに囲まれていました。平原教授のブースでも宇宙空間や真空環境の不思議について実験を交えて紹介していました。

子供たちが宇宙環境や、宇宙に挑戦する技術を学び、体験するとても良い機会になりました。

## 第27回日本数学コンクール及び第20回日本ジュニア数学コンクールを開催

第27回日本数学コンクール及び第20回日本ジュニア数学コンクールが、8月7日（日）、本学をはじめ、大阪・三重・和歌山・福井の5会場において開催されました。

日本数学コンクールは高校生を対象に、日本ジュニア数学コンクールは小学生から中学生を対象に、科学と技術の基盤を担う夢とロマンを秘めた若者の才能を発掘し、育成



問題に取り組む参加者

していくことを目的に開催されています。

また、近年求められている協力して解を導き出せる人材の発掘・育成のため団体戦も同時開催しています。

今年度は両コンクール共通問題として「正多面体を多面的に考える」、「サイクリングロードの数理設計」、「ステレオ図法」、「 $\sqrt{2}$ をめぐる」、 「花火の場所取り」の5題が出題され、小・中・高校生429名が、楽しみながら難しい数学の問題に取り組みました。

なお、問題はweb上に掲載されます。（<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/public/math-con/>）

審査員により論理性や着眼点などが審査され、11月6日（日）に表彰式が行われる予定です。

# 宇宙線ミュオンによる最新イメージング技術

森島 邦博  
 高等研究院特任助教

地球上には宇宙線と呼ばれる高いエネルギーの素粒子や原子核が絶えず降り注いでいます。この中に含まれるミュオンは、X線などと比べて格段に高い透過力と直進性を持つ素粒子で、高いエネルギーであるほど厚い物質を透過します。このような特徴を生かし、物体を通過してきたミュオンの方向と数を観測することでX線撮影などの従来の技術では観察不可能な“厚い”物体内部の高精細なイメージを得る新しい技術を宇宙線ミュオンラジオグラフィと呼びます。火山のように巨大で直接内部を見る事が出来ないものや遺跡など文化財的な観点から破壊出来ないものなど多種多様な研究対象がありますが、これまでにイメージングされた対象は数えるほどしかなく、広大な未開拓領域が広がっています。私は、原子核乾板と呼ぶ銀塩写真フィルムの技術をベースにした素粒子検出器による宇宙線ミュオンラジオグラフィ技術の開発を進めています。原子核乾板は、薄いフィルム状で電源不要、容易に大型化可能な検出器です。これらの特徴は、屋内外問わず大きな対象を観測するための検出器として非常に適しています。

私が進めている研究は、原子炉であれば原子力工学からプラント企業や電力会社まで、ピラミッドは考古学、火山は地球惑星科学などと異なる分野の研究者や企業との連携が不可欠であり、個人の専門分野の研究領域には収まりません。このような異なる分野間の横断・融合による新領域の開拓は、大学で行う研究の醍醐味の一つと感じており、今後も益々研究を加速させていきたいと思っています。

地球上には宇宙線と呼ばれる高いエネルギーの素粒子や原子核が絶えず降り注いでいます。この中に含まれるミュオンは、X線などと比べて格段に高い透過力と直進性を持つ素粒子で、高いエネルギーであるほど厚い物質を透過します。このような特徴を生かし、物体を通過してきたミュオンの方向と数を観測することでX線撮影などの従来の技術では観察不可能な“厚い”物体内部の高精細なイメージを得る新しい技術を宇宙線ミュオンラジオグラフィと呼びます。火山のように巨大で直接内部を見る事が出来ないものや遺跡など文化財的な観点から破壊出来ないものなど多種多様な研究対象がありますが、これまでにイメージングされた対象は数えるほどしかなく、広大な未開拓領域が広がっています。私は、原子核乾板と呼ぶ銀塩写真フィルムの技術をベースにした素粒子検出器による宇宙線ミュオンラジオグラフィ技術の開発を進めています。原子核乾板は、薄いフィルム状で電源不要、容易に大型化可能な検出器です。これらの特徴は、屋内外問わず大きな対象を観測するための検出器として非常に適しています。

2014年に、東芝と共同で炉心溶融が疑われてい

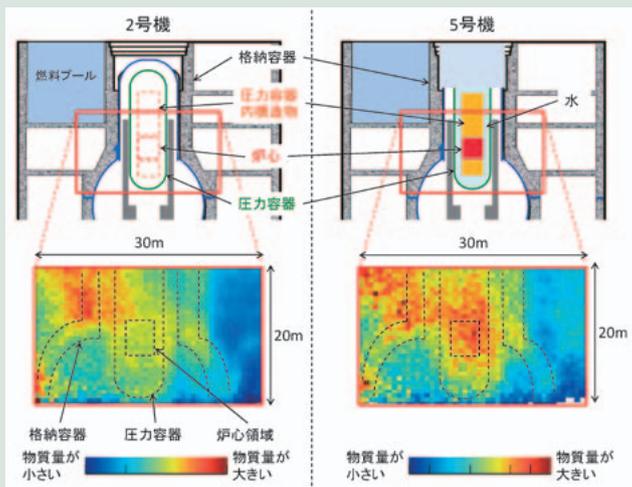
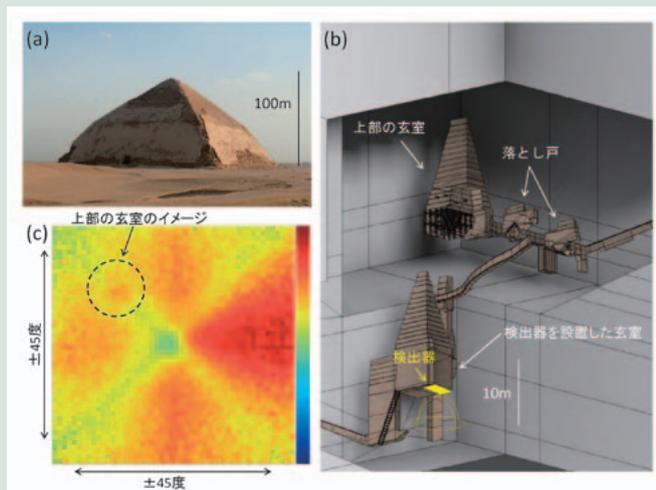


図1 福島第一原子力発電所2号機(左)および5号機(右)の原子炉建屋の構造(上)と宇宙線ミュオンイメージ(下)。イメージの下のカラーバーが示すように赤い色ほど多くの物質が存在しており、5号機と2号機で炉心領域の様子が異なる事が分かる。健全な5号機は炉心燃料と水が入っており、それと比較して物質が少ない2号機は炉心溶融が起きていた事を表している。

図2 (a) 屈折ピラミッドの外観 (b) ピラミッドの内部構造の3Dモデル。2つの玄室とそれらをつなぐ通路や落とし戸など複雑な構造を持つ。下部の玄室に検出器を設置して観測を行った。(c) 屈折ピラミッドの宇宙線ミュオンイメージ。真上方向(イメージの中心)に対しておよそ±45度の範囲を示す。赤い色ほど多くのミュオンが検出されておりその方向に存在する物質が少ないことを表している。点線の円で囲んだ領域は(b)に示す上部の玄室の空間と一致している。



# 不思議な裸子植物グネモンと樹木の負重力屈性を巡る謎

山本 浩之 大学院生命農学研究科教授

傾いた樹木の幹が、年月を重ねるにつれ、再び立ち上がってくることに気付かれた方は多いと思います。これを“負重力屈性”と言います。そのメカニズムを巡って、古くから議論が重ねられてきました。現在では、“あて材”と呼ばれる特異な構造と性質を持つ繊維が、傾いた幹や枝の二次木部（木材の部分のこと）に形成され、そこに大きな力（成長応力と言う）が発生するためだ、ということが分かっています。“あて材形成”のお陰で樹木は巨大化できるのです。

あて材および成長応力のパターンは、裸子植物と被子植物<sup>注1)</sup>とで根本的に異なることが知られています（図1）。前者では、傾斜して生育する樹幹や枝の下側に沿ってあて材が形成され、そこには膨張しようとする力（圧縮の成長応力）が発生します。結果として樹幹は押し上げられます。そのようなあて材を“圧縮あて材”と呼びます。一方、後者では、傾斜の上側に沿って“あて材”が形成され、そこに発生する成長応力は収縮しよ

うとする力（引張応力）となります。これによって樹幹は引っ張り上げられます。これを“引張あて材”と呼びます<sup>注2)</sup>。この違いがどうして生じたのかは、植物進化学上の大きな謎です。筆者らは、不思議な裸子植物“グネモン”を通して、この謎を解く旅を始めたところです。

グネモン（学名 *Gnetum gnemon* L.）は、東南アジア原産の裸子植物であり、グネツム目のグネツム科に属します。グネツム目は、裸子植物4グループ（ソテツ目、イチヨウ目、針葉樹目、グネツム目）のうちでも、もっとも新しく分化したグループであるとされ、ウェルウィッチア科（かの有名なキシソテンガイ1種のみ）、マオウ科（トクサの様な外観の灌木）、グネツム科（グネツム属1属のみ）の3科からなっています。このうちグネモンを含むグネツム科の2種が、樹高20メートルほどの高木となります。

グネモンの何が不思議なのかと言えば、まず、網状葉脈を持つ葉をたわわに繁らせること、次い



図1 あて材の成長応力による負重力屈性の発現パターン。裸子植物と被子植物とで大きく異なる。樹幹の傾斜部分で灰色に塗りつぶしたところが“あて材”。

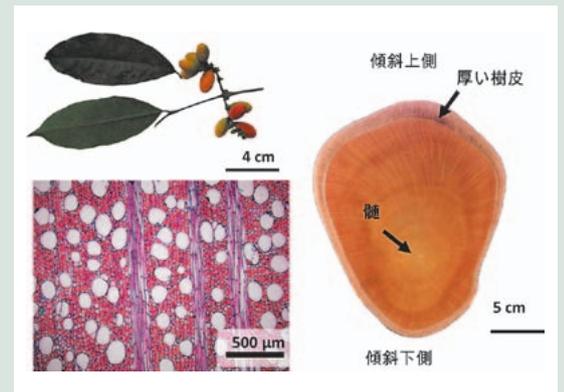


図2 グネモンノキ（グネツム科）。左上：葉と種子 左下：二次木部横断面（多数の道管と放射組織が見られる。） 右：傾斜樹幹の横断面

で、硬い二次木部に道管要素や多列の放射組織を形成することが挙げられるでしょう（図2）。いずれも他の裸子植物のグループには見られない、広葉樹としか思えないような特徴なのです。これらの特徴から、グネモンが属するグネツム目こそが被子植物の祖先に近縁なのだと考えられたこともありました。その後の分子系統学の進歩により、現在では、むしろ針葉樹目に近縁なグループだと考えられています。

では、裸子植物でありながら、被子植物（いわゆる広葉樹）そっくりの外観を示すグネモンでは、どちらのタイプのあて材が作られるのでしょうか。やはり裸子植物型（圧縮あて材）なのでしょうか。それとも組織構造の特徴から被子植物型（引張あて材）となるのでしょうか。

最近のことですが、筆者らは、インドネシア・東カリマンタン州に生育するグネモン数個体について、成長応力を現地調査する機会を得ました。得られた結果をまとめると、以下のようになります。

- (1) 横断面では、傾斜の上側に肥大成長の促進が見られる（図2）。
- (2) 傾斜の上側で、引張の成長応力がやや大きくなる。傾斜の下側では、むしろ成長応力は消失する。
- (3) 繊維細胞壁の平均マイクロフィブリル傾角<sup>注3)</sup>が、傾斜の上側でやや小さくなっている。

これらの結果は、どれもが広葉樹の引張あて材に見られる特徴です。圧縮あて材が形成されている兆候は見つかりませんでした。

さて、冒頭に挙げた疑問「あて材の形成パターンが裸子植物と被子植物とで根本的に異なるのはなぜか」に戻りましょう。グネモンの調査で得ら

れた結果をヒントに、筆者らは、次のようなシナリオを“想像”しています。（以下想像…）グネツム目以外の、より原始的な裸子植物は、圧縮あて材の形成によって負重力屈性を発現する能力を獲得していました（ただしソテツ類の成長応力はいまのところ測定されていません）。その後出現したグネツム目では、道管が発達しましたが、このことは圧縮あて材形成による負重力屈性発現には不向きだったと考えられます（圧縮の成長応力が道管の座屈閉そくを引き起こすからです）。グネツム目の出現に前後して、被子植物という新しいグループが登場しました。程なくして道管を発達させました。グネモンの場合と同様な理由で原始的な引張あて材を作るものが出現し、木本性被子植物の大型化が可能となりました。すなわち、“道管要素など、原始的な被子植物に生じた形質が、被子植物型のあて材を作るきっかけとなり、それが自然選択によって固定された”のではないかと考えています。もちろん想像ですが…。筆者らは、これから“想像”を確かめる旅を始めたいと思っています。

注1) ここでは、被子植物のうちで木本（樹木）となるもの（いわゆる広葉樹）を議論の対象としている。ちなみに裸子植物はすべて樹木となる。

注2) 広葉樹においては、ごく少数の樹種で例外が見られる。それらは裸子植物の圧縮あて材に類似している。裸子植物から被子植物が分岐したと考える植物進化学の立場では、これらの例外は先祖返りだと考えている。

注3) 二次木部（幹や枝を構成する木材の部分）の繊維細胞は厚く木化した細胞壁からなるが、セルロースの結晶性微細繊維束がその骨格をなしている。それは繊維長軸に対し一定の角度をなして配向する。この角度をマイクロフィブリル傾角と呼ぶ。

愛知県蒲郡市出身、名古屋大学大学院農学研究科修士課程修了、2006年1月から教授（大学院生命農学研究科）。専門は森林・木質科学。木材に固有の物性や材料機能の発現（と樹種多様性）を、細胞壁の形成、樹幹木部の形成、樹木個体の成長を俯瞰する立場から理解することを、究極の目標に置いている。写真は、グネモンの成長応力の測定風景（インドネシア、東カリマンタン州）。

やまもと ひろゆき



第65回東海地区国立大学体育大会  
—男子優勝、女子4位—

第65回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、5月から7月の週末に開催されました。本大会は、東海地区（愛知県・岐阜県・三重県・静岡県）の8つの国立大学が運営している伝統ある体育大会で、参加大学が輪番で複数の競技の運営を担当する分散開催方式を採用しています。

今年度は豊橋技術科学大学が幹事大学となり、男子20種目、女子14種目が実施されました。出場した選手達は東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、熱戦が繰り広げられました。

総合成績では、本学は男子が4年ぶりの優勝、女子が4位という結果に終わりました。

第65回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

■男子

競技種目	名古屋大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		岐阜大		名工大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	2	8.0	7	2.0	4	5.0	—	0.0	1	10.0	3	6.0	5	4.0	6	3.0	浜医大不参加 委員会後（当日）
2 水泳	1	10.0	7	2.0	5	4.0	8	1.0	3	6.0	4	5.0	2	8.0	6	3.0	
3 硬式野球	3	4.5	5	2.0	1	8.0	/	/	3	4.5	5	2.0	2	6.0	5	2.0	3,4位区別無し 5位以下順位無し
4 準硬式野球	5	2.5	5	2.5	1	10.0	5	2.5	3	5.5	3	5.5	5	2.5	2	8.0	3,4位区別無し 5位以下順位無し
5 硬式テニス	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	3	6.0	5	2.5	4	5.0	5位以下順位なし
6 ソフトテニス	5	2.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5	1	10.0	4	5.0	3	6.0	5	2.5	初日雨天中止
7 バasketボール	/	/	6	1.0	5	2.0	/	/	3	4.0	4	3.0	2	5.0	1	6.0	
8 バレーボール	4	5.0	8	1.0	2	8.0	5	4.0	1	10.0	7	2.0	3	6.0	6	3.0	
9 卓球	1	8.0	—	0.0	3	5.0	/	/	4	4.0	2	6.0	5	3.0	6	2.0	豊技大不参加（委員会後）
10 バドミントン	3	6.0	4	5.0	1	10.0	7	2.0	8	1.0	5	4.0	2	8.0	6	3.0	
11 サッカー	3	6.0	4	5.0	—	0.0	1	10.0	5	3.0	6	3.0	2	8.0	7	3.0	静岡大不参加（委員会後）
12 ハンドボール	3	4.0	/	/	6	1.0	/	/	1	6.0	5	2.0	2	5.0	4	3.0	
13 柔道	1	6.0	—	0.0	3	4.0	/	/	4	3.0	5	2.0	2	5.0	/	/	豊技大不参加（委員会後）
14 剣道	3	6.0	5	2.5	4	5.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5位以下順位無し
15 空手道	1	6.0	/	/	3	4.0	5	2.0	6	1.0	4	3.0	2	5.0	/	/	
16 弓道	3	5.0	5	2.0	1	8.0	5	2.0	/	/	4	4.0	5	2.0	2	6.0	5位以下順位無し
17 体操	1	5.0	/	/	3	3.0	/	/	—	0.0	/	/	2	4.0	—	0.0	愛教大、名工大不参加 （委員会後）
18 馬術	4	2.0	/	/	4	2.0	/	/	4	2.0	3	4.0	2	5.0	1	6.0	4位以下順位無し
19 アーチェリー	5	1.0	/	/	3	3.0	/	/	2	4.0	1	5.0	4	2.0	/	/	
20 少林寺拳法	1	4.0	/	/	2	3.0	/	/	/	/	4	1.0	3	2.0	/	/	
合計得点		101.5		30.0		101.0		31.0		86.5		71.0		97.0		58.0	
男子順位		1		8		2		7		4		5		3		6	

■女子

競技種目	名古屋大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		岐阜大		名工大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	2	6.0	/	/	5	3.0	7	1.0	1	8.0	3	5.0	4	4.0	6	2.0	
2 水泳	3	5.0	/	/	4	4.0	5	3.0	1	8.0	6	2.0	2	6.0	7	1.0	
5 硬式テニス	6	1.0	/	/	1	6.0	2	5.0	3	4.0	4	3.0	5	2.0	/	/	
6 ソフトテニス	2	6.0	/	/	1	8.0	5	2.0	4	4.0	5	2.0	3	5.0	5	2.0	5位以下順位無し
7 バasketボール	—	0.0	5	2.0	1	6.0	/	/	3	4.0	4	3.0	2	5.0	/	/	名大不参加（委員会後）
8 バレーボール	4	3.0	/	/	3	4.0	/	/	1	6.0	—	0.0	2	5.0	5	2.0	三重大不参加（委員会後）
9 卓球	1	8.0	/	/	3	5.0	6	2.0	5	3.0	7	1.0	2	6.0	4	4.0	
10 バドミントン	4	4.0	/	/	3	5.0	6	2.0	5	3.0	1	8.0	2	6.0	7	1.0	
12 ハンドボール	/	/	/	/	3	2.0	/	/	1	4.0	—	0.0	2	3.0	/	/	三重大不参加（委員会後）
13 柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	競技中止
14 剣道	2	6.0	/	/	3	5.0	5	3.0	1	8.0	4	4.0	—	0.0	—	0.0	岐阜大、名工大不参加 （委員会後）
15 空手道	5	2.0	/	/	4	3.0	2	5.0	6	1.0	1	6.0	3	4.0	/	/	
16 弓道	1	8.0	—	0.0	3	5.0	6	2.0	/	/	2	6.0	4	4.0	5	3.0	豊技大不参加（委員会後）
17 体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	競技中止
19 アーチェリー	3	2.0	/	/	1	5.0	/	/	2	4.0	3	2.0	3	2.0	/	/	3位以下順位無し
20 少林寺拳法	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技
合計得点		51.0		2.0		61.0		25.0		57.0		42.0		52.0		15.0	
女子順位		4		8		1		6		2		5		3		7	



卓球



少林寺拳法



弓道

# 大学院国際開発研究科創立25周年記念事業を開催

●大学院国際開発研究科



講演するデビッド・ヒューム教授

大学院国際開発研究科（GSID）は、創立25周年を記念し、7月28日（木）、29日（金）の両日、野依記念学術交流館において、松尾総長と修了生との特別座談会「NU MIRAI 2020の実現に向けて：同窓生からの視点」及び記念国際シンポジウム「新時代の国際開発研究と教育：持続可能な開発目標とその先」を開催しました。28日に行われた特別座談会では、世界で活躍する同研究科同窓生6名が、本学が2020年までに達成すべき目標を定めた「NU MIRAI 2020」が掲げる教育と国際化に関わる目標について、総長と意見交換をしました。同窓生6名はインドネシア経済調整担当副大臣、キルギス中央銀行総裁、国連食糧農業機関（FAO）駐日連絡事務所長、カンボジア王立プノンペン大学長、英国国際環境開発研究所上級エコノミスト、パーレーン大学経営学部准教授として活躍中で、それぞれの立場から、本学が世界で活躍する人材を育成するために有効な教育プログラムや、国際化の推進のための修了生ネットワークの活用方法等について、熱く語り合いました。

29日に開催された記念国際シンポジウムでは、総長が本学を代表して歓迎の辞を述べた後、前川喜平文部科学事務



総長と同窓生が語り合う様子



全員で記念撮影

次官、竹若敬三外務省国際協力局審議官他の来賓が研究科25周年を祝福するあいさつを行いました。基調講演では、ヨーロッパ最大の国際開発学拠点である英国マンチェスター大学グローバル開発研究所長であり、英国・アイルランド開発研究会会長でもあるデビッド・ヒューム教授が、国際社会が掲げる開発目標が「ミレニアム開発目標（MDGs）」から「持続可能な開発目標（SDGs）」に移行したことが、グローバルガバナンスの変化とどう連動しているかについて講演を行いました。その後、17のSDGsの中から二つの目標（「包含的な経済成長の促進」及び「平和で包含的な社会の促進」）について、世界で活躍する同窓生10名がラウンドテーブル・ディスカッションを行い、目標達成には何が必要かを議論しました。さらに、目標達成に向けてどのような研究を推進すべきであり、それをどう国際開発分野の大学院教育に反映すべきかについて、会場を含めて活発な討論を行いました。

記念国際シンポジウムには38か国から約250人の参加があり、その様子はウズベキスタン、カンボジア、タイ、インドネシア、フィリピンにライブ映像配信されました。国際社会の開発目標達成に向けて、本学が研究と教育を通じて貢献するという強いメッセージを、国内外に発信する最良の機会になりました。海外から招へいた同窓生10名は、その後の懇親会でGSID親善大使に任命され、同研究科のグローバルなネットワーク強化に引き続き貢献することを誓いました。1991年の設立以来、合計1,879名を数える同研究科同窓生の多くが世界中で活躍していますが、彼らが本学の貴重な資産であることが改めて感じられました。

# 平成28年度工学部懇話会を開催

●工学部



高校側からの質問に答える工学部教員

工学部は、8月8日(月)、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー3階ベンチャーホールにおいて、平成28年度工学部懇話会を開催しました。同懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、本学の工学部の教育・研究を評価してもらうこと等を目的に、平成8年度より毎年開催しているものです。

特に、平成29年度より、教育組織のカリキュラムを再編成し、学部及び大学院を一体で改組する予定であることから、今回の懇話会テーマを「工学部・工学研究科の組織改編～ノーベル賞受賞者を生み出した自由闊達な学風の下で実施する Basics-Specialization-Innovation 教育～」としました。参加した教諭は、東海・北陸地区だけでなく、北海道や関東、関西地区などから、計11県67校、79名にも及びました。

懇話会の前半は、新美工学部長からあいさつと組織改編後の概要説明があった後、新7学科の教育・研究について、映像による紹介がありました。続いて、高校側から事前に寄せられた入試、進路、就職状況等に関する31項目の質疑に対し、工学部教員が回答しました。また、当日出席者か



工学部・工学研究科の魅力を伝える学生

ら改組後の教育カリキュラムや学生の就職活動の現状、求人状況などの質疑もありました。

後半は、博士課程後期課程2年の村手宏輔さんが、学生生活、研究室での1日、取り組んでいる研究とその面白さなどを紹介し、「本学工学研究科は就職に関して非常に有利であるが、後期課程での研究の充実は非常に魅力的で、是非生徒にも伝えてほしい」との思いを述べ、参加者からは「生き生きとした表情を知ることができて大変有意義だった」などの感想がありました。続いて、7学科にわかれて研究室の見学を行い、現在進めている研究内容の説明を受けました。そこでの大学院生との対話を通じて、学生が成長する様子にも直に接しました。

懇話会の全過程を通じ、高校教諭の先生方には、工学部における教育・研究活動の魅力が十分に理解いただけました。



研究室見学で研究内容の説明を受ける高校教諭

## 日韓宗教テキスト遺産共同ワークショップを開催

●大学院文学研究科

大学院文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターは、韓国・東国大学校仏教学術院及び高麗大蔵経研究所と、「高麗教蔵」関係資料の共同研究を行うことで合意し、7月14日(木)から19日(火)の6日間、名古屋市の大須観音(大須文庫)及び本学において、最先端国際研究ユニットの活動の一環として国際ワークショップを開催しました。



共同研究協定の調印式

10世紀後半の高麗王国で、王子にして僧となった義天により国内外から集められた仏教聖典は、「高麗教蔵」として大蔵経に続いて刊行され、「義天版」としても知られ、日本にも早く伝来しました。それをもとに日本で書写もしくは開版・印刷がなされており、仏教学や宗教学の基本文献である「大正新修大蔵経」編纂の際には、高麗大蔵経とともにその底本ともなっています。大須文庫にもその写本及び刊本が伝わっています。この貴重な東アジアの宗教テキスト遺産を、いかに共有するかが人文学術上の大きな課題でした。そこで14日(木)、大須文庫の調査を継続している同センターと、「高麗教蔵」研究を主導する二者との間で協定を締結する運びとなりました。15日(金)から大須文庫で合同資料調査及び資料のデジタル撮影並びに七寺の古写経の見学会を実施しました。18日(月)には東国大学金 浩星教授から現在の事業と今後の計画についての報告と、韓国学中央研究院金 鐘明教授による「韓国における仏教関連の世界記憶とその知的持続可能性」と題した講演があり、活発に意見交換が行われました。日韓両国の文化財の現状及びその研究の状況について、相互の認識を深め、今後の共同研究展開の基盤を作ることができました。

## 紫綬褒章受章記念講演会・懇談会を開催

●大学院理学研究科・大学院生命農学研究科・高等研究院・生物機能開発利用研究センター

大学院理学研究科、大学院生命農学研究科、高等研究院及び生物機能開発利用研究センターは、7月25日(月)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、篠原久典理学研究科教授及び松岡 信生物機能開発利用研究センター教授が2016年春の褒章における紫綬褒章を受章したことを記念した講演会及び懇談会を開催しました。



紫綬褒章受章記念懇談会の様子

はじめに松尾総長から、学術及び芸術・スポーツ分野における優れた業績に対して贈られる同褒章の受章は、本学にとっても大変な名誉であるとの趣旨のあいさつがありました。

その後、松本理学研究科長のあいさつに引き続き、篠原教授が、受章対象となったナノカーボンに関する講演を行いました。ナノカーボンや様々な研究者との出会い、そしてフラーレンからナノチューブ、グラフェンに至るナノカーボン研究の飛躍的な発展について、その経緯をわかりやすく紹介しました。

引き続き、川北生命農学研究科長のあいさつの後、松岡教授が、イネの分子育種研究についての講演を行いました。イネの突然変異体を発端とする研究が、ジベレリンと呼ばれる成長ホルモンの生合成や受容に関する分子機構の解明を経て、収量増加に貢献するイネの作出に至るまでの足跡を、臨場感たっぷりに説明しました。

懇談会には、両教授にゆかりの深い、理学及び生命農学研究科の教職員や学生が参加し、皆で受章の喜びを分かち合いました。のびやかでオープンな篠原教授、松岡教授の人柄を反映した、心温まる懇親の機会となりました。

## 第1回農場講演会を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドは、7月28日(木)、あいち尾東農協東郷支店において、第1回農場講演会を開催しました。

東郷フィールドでは、地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、平成14年度から毎年、一般市民に大学の研究を身近なものとして伝える「農場講演



質疑の様子

会」を企画・実施しています。平成20年度からは、当フィールドが位置する東郷町の後援を受け、講演会の一部を町の関連施設で開催しています。東郷町では、農業の学習・体験を通して、多様な農業者の育成を進め、農業の活性化を図ることを目的として「とうごう農学校」を開設しています。今回は、主にその受講者を対象として、生源寺眞一生命農学研究科教授が「近未来の日本農業と地域社会」と題する講演を行いました。講演では、マスコミでもしばしば取り上げられる食料自給率、就農者の高齢化など我が国の農業が抱える課題とそれらの将来展望について多角的視点から分かりやすく説明するとともに、近未来の農業、農村、さらには食品産業に期待される役割について、農業の食料生産以外の機能も含め解説しました。

講演会には、「とうごう農学校」の受講者29名に加え、一般からも40名ほどの参加者がありました。講演後には、我が国の食料自給率、農業の担い手、TPP対応などについて、熱心な質疑が交わされ、聴衆の農業に対する関心の高さがうかがえました。

## 未来材料・システム研究所東京分室の看板上掲式を挙行

●未来材料・システム研究所

未来材料・システム研究所は、8月3日(水)、早稲田大学ナノ・ライブ創新研究機構(以下「早大ナノ機構」)内において、財満副総長、興戸未来材料・システム研究所長、早大ナノ機構の西出宏之機構長ら関係者出席の下、5月に設置された名古屋大学未来材料・システム研究所東京分室の看板上掲式を挙行了しました。



記念撮影(左から3人目:興戸所長、4人目:財満副総長、右から2人目:西出機構長)

これは文部科学省が新たに推進する大学間連携研究事業「学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト」(以下、「六研プロジェクト」)の一環として、私立大学と国立大学間の組織連携強化のため、主幹大学である未来材料・システム研究所が代表となり、早大ナノ機構内に「東京分室」を設置するものです。この「東京分室」では、本学の特任教授が、早大ナノ機構内での研究活動を担当します。また、早大ナノ機構の教授が、本学の客員教授となり、研究所間の交流を進めていく予定です。

研究テーマは、本学は材料開発、早稲田大学側は、デバイス化技術を担当し、カーボン、電子材料の薄膜・デバイス化技術を今後5年間の予定で研究します。両研究所は、これまでもナノカーボンやマルチフェロイック材料のデバイス化などの共同研究成果を発表しており、今回の分室設置により、六研プロジェクトの連携が進化、発展していくことが大いに期待されます。

## 公開講演会「嵐を測る」を開催

●宇宙地球環境研究所

宇宙地球環境研究所は、7月30日(土)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、公開講演会「嵐を測る」を開催し、市民や学生など212名の参加がありました。同研究所は、従来の学内組織である太陽地球環境研究所、地球水循環研究センター及び年代測定総合研究センターを統合して昨年10月に創立された研究所ですが、今年度の公開講演会の



講演者全員による総合討論

テーマである「嵐」は、それぞれに共通するキーワードの1つとなっています。

本講演会では、ゲリラ豪雨などの降水に関連した嵐と太陽に起因する嵐を取り上げました。これは現代社会故に発生する、又は、考えなければならない「災害」という観点からも注目されているからです。

まず、町田同研究所長によるあいさつの後、本公開講演会を企画した高橋暢宏同研究所教授による趣旨説明がありました。引き続き、雨をテーマとした牛尾知雄大阪大学大学院工学研究科准教授による「ゲリラ豪雨を測る」及び井口俊夫情報通信研究機構フェローによる「世界の雨」、そして地球を取り巻く空間の嵐をテーマとした三好由純同研究所准教授による「ジオスペースの嵐」及び三宅美沙高等研究院特任助教による「過去の太陽嵐を探る」の4件の講演が行われた後、講演者に高橋同研究所教授を加えて、総合討論を行いました。それぞれ熱のこもったプレゼンテーションに加えて、講演者の間での分野を越えた質疑応答を通じて講演の内容の理解が一層進んだほか、会場からの質疑も太陽嵐に関連した過去の気候から今夏の猛暑予測まで広がり、盛況のうちに講演会は幕を閉じました。

## サテライト展示「名大の蛾Ⅱ－春～夏の蛾－」を開催

●博物館

博物館は、4月25日(月)から7月29日(金)までの間、博物館野外観察園セミナーハウスにおいて、展示「名大の蛾Ⅱ－春～夏の蛾－」を開催しました。これは2月19日(金)まで開催されていた「名大の蛾Ⅰ－秋～冬の蛾－」展の続きにあたるもので、本学東山構内で見られる蛾を紹介したものです。



野外観察園セミナーハウスでの展示風景

東山構内では個人研究者の調査及び林希一郎未来材料・システム研究所教授を中心にした生物多様性の調査によって、今までに合計600種を超える蛾が確認されています。今回の展示では、これらの調査の成果や調査で採集された標本も紹介されました。また会場一面に貼られたパネルでは、この調査に参加した蛾の研究者である浅野邦史氏による生態写真と解説が展示されました。浅野氏の展示は、蛾の翅(はね)の表裏を左右に合わせて1匹分に見せた写真や、ピンクや緑色の卵と成虫を組み合わせたパネルなど、蛾の多様性と面白さを見せるための工夫が凝らしてあります。中国大陸等から飛んで来る蛾や、逆に家の中に棲む蛾など、生活史も多様であることを紹介しています。

展示には600名を超える見学者が訪れ、中には「虫は苦手だが蛾もいろいろな種類があって興味をもった」「蛾を見る目が変わった」「蛾も捨てたもんじゃない(蛾に失礼かな)」という感想もありました。「蛾に関する企画・展示はどこへ行ってもまだ少ないので、機会があれば今後もこういった展示を是非していただきたい」という要望もあり、日頃はあまり表に出ない生物の紹介も重要であることを教えられる展示となりました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
1 そこが聞きたい→熊本地震の教訓 日本地震学会長山岡耕春環境学研究所教授 防災は個人の意識改革	7.16 (土)	毎日 (朝刊)
2 愛知サマーセミナー2016開催:16日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演し「スウェーデンでは学生たちが主体的に国民的行事に参加する仕組みができていた」と語る	7.17 (日)	読売
3 第26回英国科学実験講座 クリスマス・レクチャー2016開催:8月21日 本学で行われる	7.17 (日)	読売
4 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生はトルコのクーデターを狙った動きについて「今の混乱した情勢を憂慮している」と語る	7.17 (日)	毎日 (朝刊)
5 カーボンナノチューブ 産業応用へ開発本格化 発見の背景 飯島澄男本学特別招へい教授	7.18 (月)	日刊工業
6 第98回全国高等学校野球選手権愛知大会:1回戦の教育学部附属高等学校の結果	7.18 (月)	毎日 (朝刊)
7 本学と長崎大学、産業技術総合研究所は、長崎大学が独自開発したスーパーコンピューター「DEGIMA (デジマ)-2」を使い自動運転の実用化に向け共同研究をする	7.20 (水)	日経 (朝刊)
8 中日文化センター 開講50周年記念企画:「世界を照らす LED」開催:21日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	7.20 (水)	中日 (夕刊)
9 水野幸治工学研究科教授と愛知県など産学官の「自動車安全技術プロジェクトチーム」は、交通事故死全国ワーストの返上を目指し、タクシーに搭載されるドライブレコーダーを活用した事故分析を始めた	7.21 (木)	中日 (朝刊)
10 内田 良教育発達科学研究科准教授の調査で2011年度までの29年間に学校管理下の柔道で118人が死亡した結果が取り上げられる	7.21 (木)	朝日 (朝刊)
11 自由席:AIと法要 豊田章一郎全学同窓会会長らが出席した長野県茅野市の聖光寺の法要の様子	7.21 (木)	中日 (朝刊)
12 西川博嘉医学系研究科教授らの研究グループはオンコリスバイオファーマと共同研究契約を結んだ	7.21 (木)	日刊工業
13 広がる大学→中堅・中小連携59:名古屋大学 クリムゾンテクノロジー 音声変換システム 声優の可能性拡大	7.21 (木)	日刊工業
14 紙つづて:男前の勧め 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	7.21 (木)	中日 (夕刊)
15 門脇誠二博物館講師らのグループは西アジアで約1万年前に家畜化されたヤギが、2千年後には北に300キロ以上離れたコーカサス地方に持ち込まれていたことを突き止めた	7.21 (木) 7.22 (金)	日経 (夕刊) 中部経済
16 ひまわり EYE:遅れた招かれざる客 (台風) 増永浩彦宇宙地球環境研究所准教授	7.22 (金)	毎日 (朝刊)
17 高校生防災セミナー開催:22日 福和伸夫減災連携研究センター教授は「災害に負けず、地域を再生させる力強さを身に付けてほしい」と語る	7.23 (土)	毎日 (朝刊)
18 あいちトリエンナーレ:佐々木康寿生命農学研究科教授らが推進する「都市の木質化プロジェクト」に錦二丁目まちづくり協議会が賛同し、地区内に木製デッキやベンチなどを設置	7.24 (日)	読売
19 「天才」復活の8年計画 リオデジャネイロオリンピック 女子1万メートル、5,000メートル代表 日本郵政グループ 鈴木亜由子氏本学卒業生	7.24 (日)	読売
20 中日新聞を読んで:怪物の物語と希望の物語 愛敬浩二法学研究科教授	7.24 (日)	中日 (朝刊)
21 変わる大学入試⑦:基礎学カテスト⑩ 本学で行われた高大接続をテーマにしたシンポジウムが取り上げられる	7.25 (月)	中日 (朝刊)
22 防災・減災ピクニック:6日 減災館や名古屋都市センターなどをバスで移動しながら防災・減災を学ぶ	7.25 (月)	中日 (朝刊)
23 紫綬褒章受章記念講演会開催:25日 篠原久典理学研究科教授は「名大で自由に研究させてもらえた」と語り、松岡 信生物機能開発利用研究センター教授は「成功事例にとらわれすぎないことで、別のアプローチが可能になる」と語る	7.26 (火)	中日 (朝刊)
24 第63回げんさいカフェ Gen Science Cafe「熊本地震から4か月でわかってきたこと」開催:8月9日 山岡耕春環境学研究科教授が講演	7.26 (火)	中日 (朝刊)
25 三井生命厚生財団第49回「医学研究助成」:認知症の周辺症状への対応 平川仁尚医学系研究科講師ら	7.26 (火)	毎日 (朝刊)
26 第51回高野山競書大会入賞者:高野山管長賞 森田貴斗さん教育学部附属高等学校3年生、野田結愛さん教育学部附属高等学校1年生	7.26 (火)	毎日 (朝刊)
27 情報学シンポジウム開催:26日 松尾総長は「文系、理系の融合で情報系の人材を育て、世界と戦える情報分野の研究の進展を図る」と語る	7.27 (水)	中日 (朝刊)
28 医学部生化学第一・第二講座が100周年を迎え、8月6日には百年記念講演会が開かれ、科学技術振興機構理事長 濱口道成前総長が講演	7.27 (水)	中日 (朝刊)
29 地球教室「鍾乳洞の正体をあばこう!」開催:8月27、28日 博物館主催	7.27 (水)	中日 (朝刊)
30 ロビー:続いている新東名開通効果 中日本高速道路社長宮池克人氏本学卒業生	7.27 (水)	中部経済
31 藤田保健衛生大学にくも膜下出血で入院していた男性が脳死と判定され臓器提供がおこなわれ、肝臓が医学部附属病院で40代男性に移植された	7.27 (水)	中日 (朝刊)
32 未来展2016開催:28日 新井史人未来社会創造機構教授が講演	7.28 (木)	中日 (朝刊)
33 レーザー:飯島澄男本学特別招へい教授は「カーボンナノチューブの研究は応用や実用化の領域が活性化している」と語る	7.28 (木)	日刊工業
34 トヨタ自動車株式会社社長内山田竹志氏本学卒業生が文部科学省と経済産業省が立ち上げた「イノベーション促進産学官対話会議」の議長を務める	7.28 (木)	日刊工業

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
35 紙つづて：ドルショック 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	7.28 (木)	中日 (夕刊)
36 博物館スポット展「ユーフラテスの春」開催：8月8日～10月21日	7.28 (木)	中日 (夕刊)
37 山中章弘環境医学研究所教授らは、スポーツ中など興奮している時はけがをしてもあまり痛みを感じないが、落ちてきた際に痛みを感じはじめるという仕組みの一端を解明	7.29 (金)	中日 (朝刊)
38 本学発ベンチャー企業株式会社スナップショットに日本政策金融公庫名古屋支店が1千万円を融資したと発表	7.29 (金)	中部経済
39 福和伸夫減災連携研究センター教授は愛知県防災対策有識者懇談会で「証明書がすぐ発行できるかは、それまでの準備で決まる。体力的に苦しい町村を県が応援できるかが、今回の教訓」と語る	7.29 (金)	中日 (朝刊)
40 市民公開講座「未来を創る結晶成長」開催：8月7日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が「世界を照らすLED」をテーマに講演	7.29 (金)	読売
41 中日健康フェア 2016 特別講座：内視鏡技術の進化と最先端の腸内細菌治療 後藤秀実医学系研究科教授に聞く	7.30 (土)	中日 (朝刊)
42 中日新聞「リンクト」：HUMAN'S EYE 自らを知り、地域の声を聞き、長期目標をもって戦略的に組み立て直す。松尾総長	7.31 (日)	中日 (朝刊)
43 長尾能雅医学部附属病院教授が委員を務める群馬大学の手術問題に関する第三者調査委員会が報告書を提出し「こうした状況では、今回のような事態に陥る可能性は誰にでもある。医師はその自覚をもつべきだ」と語る	7.31 (日)	読売
44 柳野正人医学系研究科教授は群馬大学の手術問題に関する第三者調査委員会の報告書について「群馬大学病院ではあれだけ患者が亡くなっていたのに、問題の医師による学会発表にも論文にも、死亡例はほとんど出てこなかった」と語る	7.31 (日)	読売
45 教育考察点：変わる先生たち 子どもと一緒に悩める先生に 愛知東邦大学教授今津孝次郎本学名誉教授	7.31 (日)	朝日 (朝刊)
46 本学や愛知県立大学、中部大学などの計21人が県内の伝統文化や郷土芸能を発信する県の事業「あいちの文化学生レポーター」の結団式があった	7.31 (日)	中日 (朝刊)
47 中村和弘医学系研究科教授がマウスを使った実験で緊張する仕組みを探るなど、動物の脳にある神経細胞の動きを生きのまま制御する光遺伝子学の研究が進んでいる	8. 1 (月)	日経 (朝刊)
48 本学、東京大学、東北大学に続き、早稲田大学が産業技術総合研究所と共同研究拠点「産総研・早大生体システムビッグデータ解析オープンイノベーションラボラトリ」を開設	8. 1 (月)	日刊工業
49 リオデジャネイロオリンピック出場選手紹介 日本郵便グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	8. 1 (月) 8. 3 (水)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
50 「温故知新」は防災のヒント 福和伸夫減災連携研究センター教授	8. 2 (火)	中日 (朝刊)
51 医学部附属病院の講座「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム」が取り上げられる	8. 3 (水)	中部経済
52 公益財団法人・中部科学技術センター2016年度の学術奨励研究助成：金岡英徳工学研究科助教	8. 3 (水)	中日 (朝刊)
53 未来創成：巨大地震への対策 進む研究開発「愛知県地域強靱化計画」減災連携研究センターの取り組みが取り上げられる	8. 3 (水)	日刊工業
54 DOCTOR が薦める名医：高齢者のQOL高める 泌尿器科のオーソリティー後藤百万医学系研究科教授	8. 4 (木)	中部経済
55 東海3県関係の主なリオデジャネイロ五輪出場選手：女子1万メートルと5,000メートル代表 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	8. 4 (木) 8. 5 (金)	毎日 (朝刊) 中日 (朝刊)
56 紙つづて：先輩の教え 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	8. 4 (木)	中日 (夕刊)
57 震度7 迅速に観測できず 福和伸夫減災連携研究センター教授は、「熊本地震を見ても、震度7の揺れを受けると特別大きな被害を生じることは明白で、最も重要な災害情報ともいえる」と語る	8. 5 (金)	毎日 (朝刊)
58 生前退位 こう考える「助走期間」皇太子さまに 神戸女学院大学准教授河西秀哉氏本学博士課程修了	8. 5 (金)	中日 (朝刊)
59 法政国際教育協力研究センターと日本貿易振興機構は共催で、「ベトナム・カンボジアビジネス法セミナー」を10日に開催する	8. 6 (土)	中部経済
60 病院の実力：肺がん 本学の治療実績が取り上げられる	8. 7 (日)	読売
61 益川敏英本学特別教授と小林 誠同特別教授が「クォーク」で理論を提唱したCP対称性の破れが「ニュートリノ」でも起きた兆候をつかんだと東京大学や京都大学、高エネルギー加速器研究機構などのグループが発表	8. 7 (日)	中日 (朝刊) 他2社
62 皇太子さまが名古屋市で開かれる第18回結晶成長国際会議の開会式に出席し、赤崎 勇本学特別教授の講演を聴く	8. 8 (月)	毎日 (朝刊)
63 社説：「ホシザキ奨学金」に学ぶ 配当原資に給付、産学協力の新方式 松尾総長は「継続性がある」と評価	8. 8 (月)	日刊工業
64 皇太子さまが第18回結晶成長国際会議の開会式に出席し、赤崎 勇本学特別教授の講演を聴いた	8. 9 (火)	中日 (朝刊)
65 就カツッ！：学術研究・産学官連携推本部が起業家育成を目的とした事業「Tongari (トンガリ) プロジェクト」が取り上げられる	8. 9 (火)	中日 (朝刊)
66 本学の学生サークル「科学部」が、子ども達に科学の楽しさを広めるため出前実験教室などを開いている	8. 9 (火)	中日 (朝刊)
67 「中根」の目 データが語る リオ五輪出場選手出身大学 難関大学出身選手として日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生が取り上げられる	8. 9 (火)	毎日 (朝刊)
68 奥野友介医学部附属病院特任講師らのグループは、「急性リンパ性白血病」を引き起こす原因の1つである融合遺伝子を発見	8. 9 (火) 8.10 (水)	朝日 (夕刊) 中日 (朝刊)

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
69 新・産業革命 ソサエティー5.0の世界(4):日本を超スマート社会に 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生	8.10 (水)	日刊工業
70 本学などを会場に「日英ヤングサイエンティスト・ワークショップ」が開かれ、日本と英国の女子高校生32人が参加し、益川敏英特別教授との交流会も行った	8.11 (木)	中日(朝刊)
71 医学系研究科生物化学講座と医学部生化学第一・第二講座の開設百周年記念講演会で、科学技術振興機構理事長濱口道成前総長が記念講演を行った	8.12 (金)	中日(朝刊)
72 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生はリオデジャネイロ五輪女子1万メートルを欠場し、5,000メートルに専念	8.12 (金)	中日(朝刊) 朝日(朝刊)
73 中部大学教授大日方五郎本学名誉教授は自動運転車導入に際しての課題について語る	8.13 (土)	中日(朝刊)
74 名大 MIRAI GSC 成果発表会:12日 篠原久典理学研究科教授は「将来ノーベル賞を取るような若い才能を育てたい」と語る	8.14 (日)	中日(朝刊)
75 講座「内視鏡技術の進化と最先端の腸内細菌治療」開催:9月3日 講師 後藤秀実医学系研究科教授	8.15 (月)	中日(朝刊)

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
<b>8月8日(月)～10月21日(金)</b> 場 所: 博物館野外観察園 セミナーハウス2階 時 間: 10:00～16:00 休 館 日: 土・日・祝日 (10月15日臨時開館) 入 場 料: 無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>博物館スポット展示「ユーフラテスの春—名古屋大学の調査隊が出会ったシリアの人々と自然、文化」</b>  [関連特別講演会] 10月7日(金) 場 所: 博物館3階講義室 時 間: 13:30～15:00 講演題目:「名古屋大学によるシリア、ユーフラテス河流域の調査」 講 演 者: 門脇誠二(博物館講師) 講演題目:「シリアの印象—ユーフラテスの自然と街、人々」 講 演 者: 星野光雄(本学名誉教授) 参 加 費: 無料	
<b>9月13日(火)～10月29日(土)</b> 場 所: 博物館2階展示室 時 間: 10:00～16:00 (10月15日は17時まで開館) 休 館 日: 日・月曜日 入 場 料: 無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>第33回博物館企画展 全学同窓会台湾支部5周年記念「台湾 朱振南 書画の世界—書による日台交流と後藤新平の再評価」</b>  [関連特別講演会] 場 所: 博物館3階講義室 時 間: 13:30～15:00 講演題目:「書家小野道風が遺したもの」(9/29) 講 演 者: 安達柏亭氏(中日書道会一科審査会員) 講演題目:「書に親しむ」(10/11) 講 演 者: 足立雲峰氏(書源社会員) 参 加 費: 無料	
<b>9月17日(土)、10月30日(日)、11月5日(土)、12月17日(土)</b> 場 所: 農学部講義棟3階第1講義室 時 間: 13:00～16:00 定 員: 30名 対 象: 大学生以上、一般 参 加 費: 無料  [問い合わせ先] 生命農学研究科 生物材料工学研究室 052-789-4147	<b>都市の木質化連続講座「森と街を元気に、木で豊かなくらしをつくる WOODist の育成」</b>  講演題目:「木の科学—Wood Science & Engineering—」(9/17)	

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 9月20日(火)

場 所：IB 電子情報館中棟 1 階  
IB011講義室

定 員：100名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 情報科学研究科公開セミナー 「機械学習の基礎から応用まで」

[基盤研究公開セミナー]

時 間：15:00～16:00

講演題目：「機械学習の基礎理論」

講 演 者：金森敬文（情報科学研究科教授）

内 容：機械学習の基礎理論について数理統計学と最適化理論の境界分野としての視点から紹介する



時 間：16:00～17:00

講演題目：「機械学習が支える画像認識技術」

講 演 者：村瀬 洋（情報科学研究科教授）

内 容：機械学習の工夫により低品質の画像から高精度に道路標識を認識する技術や歩行者を検出する技術、更に、低解像度の画像からの顔認識、自転車位置推定、歩行者の見落としやすさの推定など画像認識の応用技術について紹介する

[先端技術公開セミナー]

時 間：17:00～18:00

講演題目：「機械学習を用いた音声処理」

講 演 者：小川厚徳氏（NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員）

内 容：音声処理研究分野における機械学習の応用、特に深層学習の導入について、音声認識と音声強調における最新の研究事例を紹介する

[問い合わせ先]

情報文化学部・情報科学研究科  
事務部 052-789-4716

## 9月21日(水)

場 所：減災館 1 階減災ホール

時 間：18:00～19:30

定 員：100名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 第123回防災アカデミー

講演題目：「地球温暖化時代の台風災害とその対策」

講 演 者：吉野 純氏（岐阜大学准教授）



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

## 9月24日(土)～11月3日(木)

場 所：愛知県全域および岐阜・三重県の一部（大学や科学館の各会場）

対 象：小学生以上、一般

## あいちサイエンスフェスティバル2016

内 容：サイエンスやものづくりを楽しむイベントを各種開催

[オープニングイベント]

「ふくし×テクノロジーで未来はなる？」(9/24)

場 所：ES 総合館 1 階 ES ホール

時 間：14:00～17:00

講演題目：「テクノロジーは介護・看護の現場を変えるのか？」

講 演 者：堀 容子氏（一般社団法人ハッピーネット代表理事）

講演題目：「パナソニックにおける介護ソリューション開発・商品化取組の紹介」

講 演 者：河上 日出生氏（パナソニック株式会社エコソリューションズ社 エイジフリービジネスユニット ロボット・リハビリ事業開発部長）

講演題目：「IoT を基盤にした地域包括ケア」

講 演 者：水野正明（医学部附属病院教授）

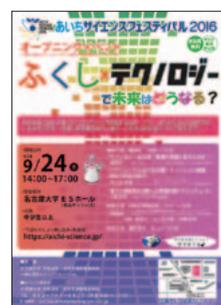
内 容：講演、展示、討論と質疑応答

対 象：中学生以上、一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部  
主任リサーチ・アドミニストレーター  
成 玖美 052-747-6527



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**9月27日(火)**

場 所：情報基盤センター4階演習室  
時 間：13:00~14:30  
定 員：40名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**平成28年度第6回情報連携統括本部公開講演会・研究会**

講演題目：「内部不正防止のための情報セキュリティ管理」  
講 演 者：大平健司氏（徳島大学講師）  
内 容：内部不正の発生を予防し、発生した場合でも早期発見・拡大防止をするために情報セキュリティ管理策をどのように設計・運用することが望ましいかについて述べる

[問い合わせ先]  
情報推進部情報推進課 052-789-4352

**9月30日(金)**

場 所：農学部講義棟1階第7講義室  
時 間：15:00~17:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**農学国際教育協力研究センター  
2016年度第4回オープンセミナー**

講演題目：「越境する米作りービジネス、生態系、技術と持続可能性ー」  
講 演 者：鴨下顕彦氏（東京大学准教授）  
内 容：米作りをテーマに最近の新しい動向について、米ビジネス、稲生態系、研究技術開発という視点から内外の事例を含めながら紹介し今後の持続可能な稲作について考察する

[問い合わせ先]  
農学国際教育協力研究センター  
052-789-4225



**10月1日(土)、10月15日(土)、  
10月29日(土)、11月5日(土)**

場 所：南山大学 R 棟 3階 R31教室  
(名古屋市昭和区) (10/1、10/29)、  
博物館3階講義室 (10/15、11/5)  
時 間：13:30~15:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**連携博物館講座  
「大学博物館が語る、地球と人類のヒストリー」**

講演題目：「名古屋大学博物館が目指す自然史科学とは？  
ーフィールド調査からわかること」(10/1)  
講 演 者：大路樹生（博物館教授）  
講演題目：「未知なる世界への好奇心  
ー博物学、人類学、考古学、そして博物館」(10/15)  
講 演 者：黒澤 浩氏（南山大学教授）  
講演題目：「石の道具が語る人類の進化ー日本でここだけ！  
原人、旧人、新人の道具を見比べよう」(10/29)  
講 演 者：門脇誠二（博物館講師）  
講演題目：「オセアニア、海を渡った人々ー人類大移動の軌跡に迫る」(11/5)  
講 演 者：如法寺慶大氏（南山大学人類学博物館学芸員）

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767



**10月6日(木)、10月13日(木)、  
10月20日(木)、10月27日(木)**

場 所：国際開発研究科8階  
オーデトリウム  
時 間：18:30~20:00  
定 員：80名  
対 象：高校生、大学生、研究者、教員、  
NGO/NPO スタッフ、一般  
参 加 費：無料

**国際開発研究科2016年度公開講座  
「人々の『幸福』を目指した開発：  
ブータンの事例を中心に」**

講演題目：「政策としての幸福：ブータンの事例から」(10/6)  
講 演 者：上田晶子（国際開発研究科准教授）  
講演題目：「幸福大国ブータン：日本がそこから学べるものは？」(10/13)  
講 演 者：今枝由郎氏（京都大学こころの未来研究センター特任教授）  
講演題目：「幸福度を測る」(10/20)  
講 演 者：藤川清史（国際開発研究科教授）  
講演題目：「関係性を軸に生きると？」(10/27)  
講 演 者：上田晶子（国際開発研究科准教授）

[問い合わせ先]  
文系事務部総務課（国際開発）  
052-789-4952



**10月8日(土)~3月11日(土)  
(期間中の土曜日 全8回)**

場 所：経済学部2階  
カンファレンスホール  
時 間：10:00~12:00  
対 象：中学生以上、一般  
参 加 費：無料

**平成28年度名古屋大学オープンカレッジ  
「自由奔放！サイエンスー知識・博学への挑戦」**

内 容：大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意をできるだけ  
わかりやすく伝える

[問い合わせ先]  
経済学研究科  
エクステンション・サービス  
ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月8日(土)

場 所：豊田講堂  
時 間：10:00～15:00  
対 象：中学生以上、一般  
参 加 費：無料

### 梶田隆章先生講演会 & 宇宙論を楽しもう Day

講演題目：「ニュートリノと重力波」  
講 演 者：梶田隆章氏（東京大学教授）  
内 容：ノーベル賞を受賞した研究や現在研究中の大型低温重力波望遠鏡 KAGRA について、わかりやすく解説した講演、名古屋大学の宇宙関係の展示

[問い合わせ先]  
学術研究・産学官連携推進本部  
主任リサーチ・アドミニストレーター  
成 玖美 052-747-6527

10月11日(火)～22日(土)

場 所：2008ノーベル賞展示室  
(ES 総合館 2階)  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月・祝日  
入 場 料：無料

### 2008ノーベル賞展示室 ニュートン著「プリンキピア」 第2版（1713年出版）ホームカミングデー特別展示

[問い合わせ先]  
理学部・理学研究科事務部  
052-747-6577

10月15日(土)

場 所：東山キャンパス  
時 間：10:00～  
参 加 費：無料

### 第12回名古屋大学ホームカミングデー 「環境と経済が共存する持続可能社会の実現に向けて」

内 容：名古屋大学の集い、学術講演、名古屋フィルハーモニー交響楽  
団コンサート、名古屋グランパススクールコーチによる親子ふ  
れあいサッカー教室、あかりんご隊科学実験、施設公開・見学  
ツアー、他

[問い合わせ先]  
総務部広報渉外課 052-747-6558

[学術講演]  
講演題目：「アジアへ日本公害史の教訓を一公害は終わらない」  
講 演 者：宮本憲一氏（大阪市立大学名誉教授・滋賀大学名誉教授）



## 表紙サークル紹介



表紙  
練習試合（ラクロス部）  
（平成28年6月18日）

### ラクロス部

私たち女子ラクロス部は、“関西撃破”という目標を掲げ、日々練習に励んでいます。ラクロスは大学から始めるスポーツで、クロスという棒のようなものを使ってボールを運び、ゴールにシュートを決めた点数を競います。最大の特徴はゴール裏を使えることです。去年決勝トーナメントに進めなかった悔しさをバネに、今年は部員全員で同じ目標を志すため、何度もミーティングをしてきました。忙しい中何度も練習に足を運び指導してくださったコーチの方々、様々な面で相談に乗っていただき、支援してくださったOGの方々に恩返しをするためにも、東海地区で優勝し、関東を倒し、関西撃破します！ 応援よろしくお祈いします。

名大トピックス No.280 平成28年9月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601） TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>）でもご覧いただけます。

このたび、名大経済学部卒業生の鈴木亜由子さんが、女子5000m 走でリオデジャネイロ五輪出場を果たして話題になりましたが、同時に名大経済学部の前身である名古屋高等商業学校（名高商）の清川正二が、1932(昭和7)年のロサンゼルス五輪の男子100m 背泳ぎで金メダルを獲得していることが再び注目されました。

清川正二は、1913(大正2)年、愛知県豊橋市に生まれました。市内の小学校を卒業後、1925年に愛知県豊橋中学校（現愛知県立時習館高等学校）に入学しました。鈴木さんも豊橋市出身、時習館高校卒業です。

清川は、1928(昭和3)年のアムステルダム五輪の水泳で、日本人選手が金メダルを獲得したことに感動し、同好の生徒を集めて水泳部を創設し練習を始めました。また当時、浜名湖周辺は近代的な水泳が盛んな地域でした。しかし豊橋市には正規のプールがなく、豊川の流とよがわの速くない淀みの場所に板で25mの仕切りをして、そこで練習

しました。1929年の浜名湾遊泳協会主催の全国大会では、100m 背泳ぎで3位に入りました。これにより、無名だった清川が全国に知られるようになりました。

そして1930年、清川は名高商に入学しました。その水泳部はすでに強豪として知られ、しかも専用プールを持っており、存分に練習することができました。清川は入学直後から頭角を現し、同年8月の全日本選手権では、50m、100mの背泳ぎで3位になりました。それでも、日本人のトップとすらかなりのタイム差がありました。

しかし清川は、翌1931年の全日本選手権では50m、100mの背泳ぎで優勝しました。さらに1932年4月の日本水泳連盟の記録会では、100m 背泳ぎで1分9秒8という驚異的な日本新記録を出しました。1930年の自身のベストタイムから4秒6も縮めたこととなります。

そして1932年8月、清川は急成長の勢いを保ったままロサンゼルス五輪に臨んだのです。



1	2	3
		4
5		

- 1 名高商入学時の清川（宣誓書の写真）。まだ幼さが残る印象で、この2年後に五輪で優勝するようには見えない。
- 2 ロス五輪のレース直後の清川（『スポーツの随想』1943年より）。当時名高商3年生。1936年のベルリン五輪でも銅メダルを獲得した。その後も、日本・世界の水泳界、スポーツ界の指導者として活躍、1979～83年にはIOC（国際オリンピック委員会）の副会長を務めた。
- 3 名高商の敷地（現名古屋市立大学桜山（川澄）キャンパス）内にあった嚶鳴寮での清川（向かって右から2番目）。この嚶鳴寮は、1961年に移転するまで名大の学生寮として使われていた。
- 4 名高商の敷地内にあった専用プール。当時は極めて貴重な施設であった。
- 5 名高商の全生徒が参加した、清川を名古屋駅まで送る市中行進（写真は納屋橋付近）。